第６章　歴史文化保存活用区域の考え方

１　区域設定の考え方

歴史文化保存活用区域とは、歴史文化資源が顕著に集中し、それらと一体となって価値を形成する周辺環境も含めて、文化的な空間を創出するための計画区域として定めることが望ましい区域を指す。ただし、歴史文化保存活用区域は対象とする歴史文化資源や周辺環境の捉え方などにより、様々な区域を設定することが可能である。本構想においては、以下の考え方に基づき区域の設定を行う。

（１）歴史文化資源の分布特徴

本町の歴史文化資源の分布状況を各関連文化財群の構成資源から見ると、以下の特徴が確認できる。

分布特徴１　平地・微高地に広く分布するだけでなく、町域の北部約 1/3 を占める山間地域にも存在する
分布特徴２　街道沿い及び宿場に集中して分布する
分布特徴３　奥羽山脈の山麓・阿武隈川に沿って数多く分布する
分布特徴４　町内全ての集落（旧宿場町及び農村集落）に分布する

本町は北部に奥羽山脈が控え、南部に阿武隈川が流れていることから、人々は古代より険しい山間地と大河に挟まれた平地・微高地に居住してきた。集落の多くは、山麓や阿武隈川沿いに分布し、人々は農耕を中心とした生業を営み、生業と密接に関わる信仰が継承されてきた。また、山麓沿いや山地の適地を縫うように街道が通り、舟運のための河岸が阿武隈川沿いに整備された。このように交通・運輸の手段を設けることで周辺地域との交流が深まり、その結節点となった宿場や街道沿いに歴史文化が醸成されてきた。

上記のとおり歴史文化資源の分布の特徴は、いずれもこのような地勢・地形的な条件に起因するもので、町域の北部約 1/3 を占める山間地域にも、人々の生業・信仰や交通・運輸に関わる歴史文化資源が存在する。各関連文化財群の構成資源をはじめとする歴史文化資源は町内に広く所在し、本町における歴史文化の形成と深く関わるものと考えられる。

（２）関連文化財群と周辺環境の関係性

本町が設定した関連文化財群の中には、盆地地形や農村風景など、地質・地勢、自然風景、文化的景観を価値の背景に持つ歴史文化資源があり、歴史文化資源と一体的な価値を形成する周辺環境は広範囲にわたっている。

関連文化財群①（地勢と歴史）は、福島盆地の地狭部という地勢の特徴を基盤にその歴史的・文化的価値が語られる必要があり、その中心的文化財である阿津賀志山防塁が歴史的景観を想起させるためには、奥羽山脈と阿武隈川、その間に形成された平地・微高地など、歴史風土を特徴付けている地勢全体を保全していかなければならない。

関連文化財群②（風土と生業）は、主に町面積の大半を占める農村地域の歴史的・文化的景観について価値を見いだすものである。水稲・野菜・果樹の耕作地、ため池・かんがい用水路、養蚕民家や信仰対象である社寺などで構成される本町の農村地域は、生活・生業の場所だけでなく歴史文化的な農村景

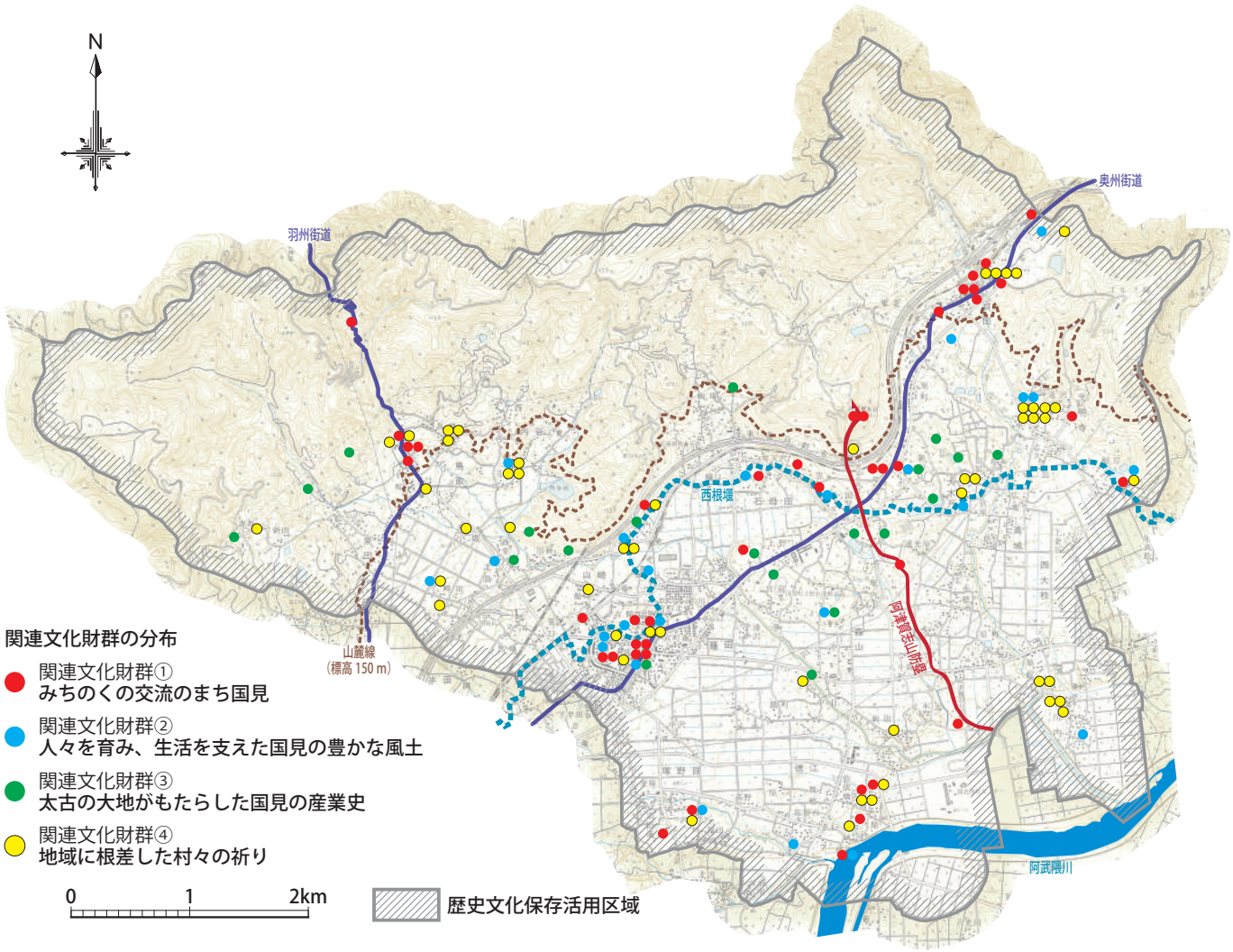


図 6-1　歴史文化保存活用区域と関連文化財群を構成する歴史文化資源の分布状況

観としての価値をあわせ持つものである。

関連文化財群③（資源と産業）は、地下資源の産出を可能とした地質や国見石の採掘場、石蔵の分布などが価値評価の基盤となるものである。通常では目にすることができない地質や地下資源についても評価の目を向けており、また一方で、町全域に広く現存・分布することが明らかとなっている。

関連文化財群④（信仰）は、村・集落単位における多種多様な信仰・地域文化の伝承に焦点をあてたものである。信仰・地域文化の背景には、実施に至った要因・出来事、伝承に必要な周辺環境などが存在し、人々の生活（住まい・生業地・里山など）を広範囲に捉える必要がある。

以上のことから、本町の関連文化財群と一体的に価値を形成する周辺環境の範囲は広く、町域全体を周辺環境とすることができる。

（３）歴史的風致維持向上計画重点区域との関係

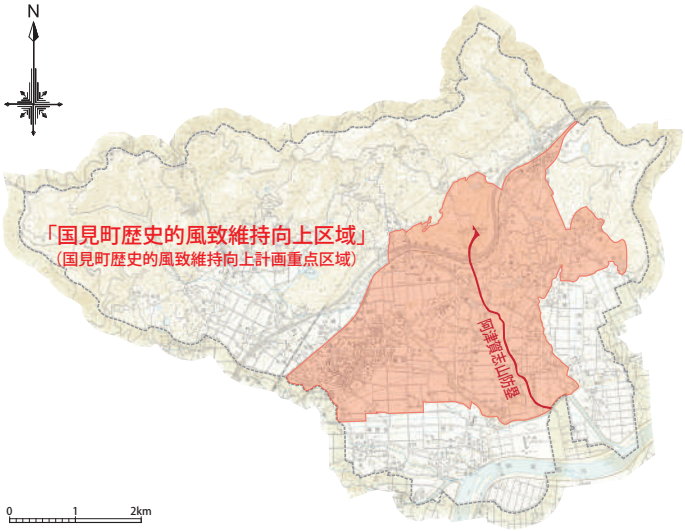
本町では、平成 27（2015）年に認定を受けた「国見町歴史的風致維持向上計画」において、下記のとおり、重点区域「国見町歴史的風致維持向上区域」を設定し、積極的に歴史文化資源の保存・活用の施策を進めている。

一方、重点区域以外にも保存・活用すべき歴史文化資源とそれらの集中する地域が明らかとなっており、同区域を拡充した枠組みが必要である。

重点区域の範囲（「国見町歴史的風致維持向上計画」より抜粋）

阿津賀志山を望む地区としつつ、防塁と旧街道の区域、旧奥州街道上の歴史的建造物が今なお残る、２つの旧宿場町やそこで行われる祭礼、また古くからの水利用が今なお続く光明寺地区を包含する区域とする。

国見町歴史的風致維持向上区域は桑折町との行政界からＪＲ東北本線沿いに北へ進み、阿津賀志山を囲むように林道水晶森線を進み、再びＪＲ東北本線沿いに更に貝田地区へ進み、宮城県との行政界まで至る。国道４号沿いに南下し、県道大枝貝田線にて東へ進み、県北都市計画区域線に沿うように東へ進む。西根上堰沿いに西へ進み、牛沢川と交差するところから南へ伊達市との行政界まで進む。そして滝川や更に町道に沿いながら西へ桑折町との行政界までを区域とする。



名　称　　国見町歴史的風致維持向上区域
面　積　　1,115ha

図 6-2　国見町歴史的風致維持向上計画重点区域「国見町歴史的風致維持向上区域」

2　国見町の歴史文化保存活用区域

前述の考え方に基づき、本町の歴史文化活用区域を設定する要素は以下のとおりである。

要素１　各関連文化財群の構成資源をはじめとする歴史文化資源は町内に広く所在すること。
要素２　関連文化財群と一体的に価値を形成する周辺環境は、町域全体であること。
要素３　国見町歴史的風致維持向上計画における重点区域を拡充した枠組みが必要であること。

以上のことから、国見町歴史文化保存活用区域を町内全域に設定する。

【区域名称】　国見町歴史文化保存活用区域
【対象区域】　国見町全域　歴史文化保存活用区域の面積　37.95㎢

本町の歴史文化基本構想で設定した関連文化財群は、歴史文化資源とその周辺環境が創出する歴史的景観を広域に捉える必要性があることから、局部的な歴史文化保存活用区域の設定は行わず、町全域で歴史文化資源の保存・活用に向けた施策を展開し、文化的空間の創出をめざしていくものとする。

【区域内に所在する関連文化財群】

● 関連文化財群①（地勢と歴史）
　みちのくの交流のまち国見　― 阿津賀志山と新旧交通網がもたらした歴史・文化交流 ―
● 関連文化財群②（風土と生業）
　人々を育み、生活を支えた国見の豊かな風土　― 国見の自然がもたらす恵み ―
● 関連文化財群③（資源と産業）
　太古の大地がもたらした国見の産業史　― 窯業・鉱業・国見石の産業 ―
● 関連文化財群④（信仰）
　地域に根差した村々の祈り　― 信仰を中心とした地域文化の伝承 ―